

図書案内

2020年 2月号

担当 2-1 石田 2-5 中川 2-6 芦崎 2-6 加瀬

恋

2月といえばバレンタインデーということにちなみ、今回のテーマは「恋」。いま恋をしている人も、そうでない人も本を読んでときめくのもいいかもしれません。本の中でも恋に悩む気持ちやときめく気持ちは同じ。本を開けばいろんな恋があふれています。ぜひチョコレート代わりに本を読んで恋の甘さや苦さを堪能してください。

本は図書館で貸出しています。



『放課後の^{キイノート}音符』 山田詠美

大人でも子供でもない、17歳の女の子たちが織りなす甘くて苦くて時々酸っぱい恋の短編集。

よくある少女漫画のようなただ甘いだけの恋とは違い、この本の中で描かれている女の子はみんな、幸せなことや苦しいこと、不安なことなどたくさんの感情に向き合って一生懸命に恋をしている。どこか現実的だけど素敵で美しい作品。そっと鞆にしのばせて、放課後にゆっくりと読んでほしい一冊。(芦崎)

私たちは、まだ子供。けれど、恋する気持ちは、誰よりも一流だ。



『陽だまりの彼女』 越谷オサム

かつて「学年有数のバカ」と呼ばれたイジメられっ子の幼馴染みと十年ぶりに再会した僕。幼馴染みは美しく仕事の出来る女へと変身していたが、彼女には大きな秘密があるようで……。

愛する人に、もし秘密があったとしたらあなたは受け入れられますか？「愛する」ということは一体どういうことなのか、「幸せ」とは何なのかを教えてくれる珠玉の恋愛小説。(加瀬)

「あのね、私、あなたと結婚してよかった」



『やめるときも、すこやかなるときも』 窪美澄

家具職人の須藤壱晴は、12月のある時期になると声が出なくなる。「記念日反応」という大切な人の死が原因だった。そんな中、壊れた家族を支えながら生きる恋愛下手なOL、本橋桜子と出会う。欠けた心を抱えたふたりは、相手を思う純粋な気持ちではなく「自分のため」に恋愛を始める。過去を忘れられない男と、結婚さえすれば今を変えられると思っている女の、「好き」だけでは前に進めないラブストーリー。(石田)

「まだつきあってはいません。でも、おつきあいするつもりでいます」



『銃とチョコレート』 乙一

恋愛ものが苦手な人にはこの本！ バレンタインチョコレートを想像させる一冊です。

登場人物のなかには、ヒーローである探偵ロイズ、怪盗ゴディバなど、今すぐにチョコレートが食べたくてくるような名前が次々と登場してきます。ミステリー、冒険、笑いのある小説です。読み終わりには、チョコレートが食べたくなるかも！？(中川)

きみに冒険をあたえたかったんだ。胸わくわくするようなやつを！

女性は失恋しても立ち直りが早い？

失恋はとてもつらい出来事。できることなら早く立ち直って、普段通りの生活を送りたい——。一般的に女性のほうが失恋しても立ち直るのが早いといわれますが、失恋に対する反応は男性と女性とでは異なるのでしょうか。日本心理学会のHPによると、男性は失恋したことを未練がましく後悔しているのに比べ、女性は関係の解消を肯定的にとらえている人が多いそうです。また、女性は、他者に自分が失恋した事実関係について話したり、そのことに伴う自分の気持ちを打ち明けたりすることが多いとのこと。この「自己開示」行動は、男性より女性のほうが行うことが多い、とわかっているそうです。失恋のストレスを打ち明けることで、自らのネガティブな感情を浄化し、かつ失恋がもたらす諸問題を解決するためのアドバイスを開示相手から得られ、結果的に気持ちの切り替えが出来るのですね。もうすぐ春。新しい気持ちで前向きに過ごしたいですね！

【記事出典】公益財団法人 日本心理学会 <https://psych.or.jp/interest/ff-27/>

